



Co-Creation vol.03

with the community 【大学・地域連携推進室 広報誌】



CONTENTS

- P1 学長挨拶 -Co-Creation第3号発行にあたって-
- P2 特集 協働から共創へ -地域とともに深化、発展するPBL-
- P3-4 教養力育成科目「地域創生入門」開講
- P5-6 長崎県島原市と包括的連携協定を締結
- P7-9 近隣自治体との連携協力に基づく地域貢献活動(新宮町、古賀市、福岡市)
- P10 お知らせ -学生の課外活動をサポートする
新たな修学支援「ポイント制度」がスタートします-



福岡工業大学 学長

下村 輝夫

Co-Creation第3号発行にあたって

福岡工業大学では、学園の第7次マスタープランの中で「地域連携の推進」を重要戦略の一つに掲げ、福岡市東部における“地(知)の拠点”、“地域の皆様に愛され必要とされる大学”を目指して、様々な教育研究活動の改善、環境整備に取り組んでまいりました。

その中の一つ、“大学の学びを地域のサービスに換えてより深い学びへ”をモットーとするPBL (Project Based Learning;課題解決型学習)は、学生達が近隣自治体、企業、NPO法人等と協働し、大学での学びを活かして地域課題の解決策を提案するという活動です。

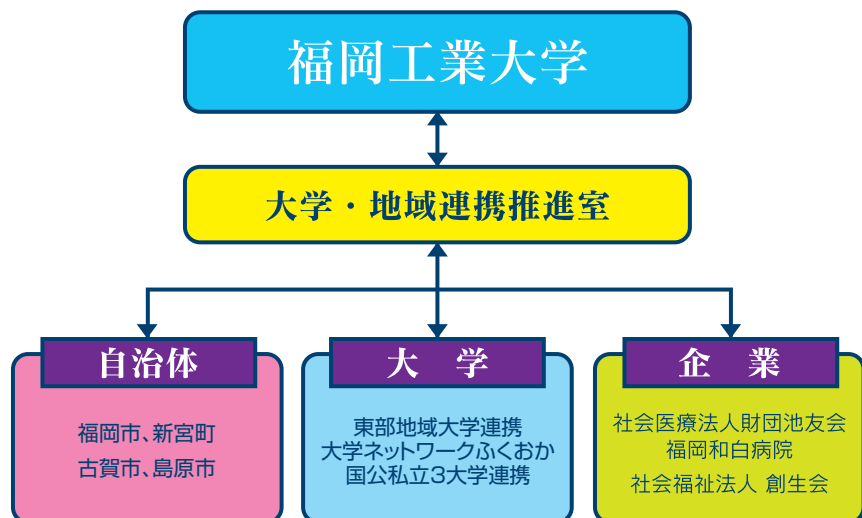
2014年に新宮町の観光PRポスターの作成からスタートしたPBLは、その後同町の紹介動画やホームページの作成、ICTを活用したゴミの分別収集とリサイクルの推進、相島の特産品を活用したお土産の提案、古賀市の公共交通機関の利用促進に向けた行政政策への多角的な協力など、毎年深化と発展を続けています。

2016年にはキャリア形成科目に夏休みを活用した、自治体、企業等での4週間に及ぶ「課題解決型インターンシップ」を導入。2017年には情報工学部システムマネジメント学科が3年生の授業科目に「シスマネPBL」を開講するなど、学生の地域での活動を大学教員と職員が一体となってサポートしてきました。

そして2018年、教養力育成科目に「地域創生入門」を開講し、低学年次から全学的なPBLがスタートしました。また、長崎県島原市との包括的連携協定の締結により、学生の活動テーマ、フィールドが飛躍的に拡大しました。

本学では、今後も地域と大学を繋ぐ窓口として大学・地域連携推進室のコーディネーター機能の強化を図るとともに、自律的に考え、行動し、地域の様々な分野で創造性を発揮できる「実践型人材」の育成を目指してまいります。

Co-Creation第3号をお手に取っていただき、皆様の率直なご意見、ご感想をお聞かせいただけると幸いです。



福岡工業大学では、学長のリーダーシップの下、連携強化に向けて近隣自治体、大学、企業との「包括的連携協定」を積極的に活用。大学・地域連携推進室が窓口となって、学内複数の学部・学科、各部署と協働し、多種多様な連携事業を展開しています。

特集

「協働」から「共創」へ —地域と共に深化、発展するPBL—

本学では教育改革のフレームに「教授法の質的転換」を加え、その具体的方策としてアクティブラーニングの全学的展開を推進しています。その一環であるPBL(Project Based Learning;課題解決型学習)は、工学部、情報工学部、社会環境工学部に所属する学生達が、それぞれの学びをフル活用して大学周辺の自治体や企業が抱える課題を探り、その解決策を具体的に導き出す取り組みです。学生達は、その過程において地域の歴史、文化、産業について総合的に学び、チームメイトや自治体、企業の方々とのディスカッションやフィールドワークを行いながら、地域活性化のために自分達にできることを主体的に考え、実践していきます。キーワードは、“地域との協働から地域との共創へ”。

単に解決策を提案するだけでなく、様々な立場の方と共に、学生自らが能動的に地域課題の解決や活性化に取り組もう、という本学の新たな教育プログラムについて紹介します。

TOPIC 1 教養力育成科目「地域創生入門」開講 1年次から学部横断型のPBLがスタートしました。



▲「地域創生入門」成果報告会終了後、企業、自治体、NPO法人の方々と一緒に。

TOPIC 2 長崎県島原市と包括的連携協定を締結 学生の活動の場が県外にも広がりました。



用語説明:

本学におけるアクティブラーニングの定義

学生の知識の定着及び能動的な学習の涵養を目的として行われる、学生の意見表明及び振り返りを基本的な要素とする授業・学習形態のことです。具体的には、グループ学習、グループディスカッション、体験学習等を取り入れた授業をいいます。

◀2018年10月12日、島原市役所で締結式を行いました。
左から、下村学長、古川島原市長、木室情報工学部長

詳しくはP3-4、P5-6をご覧ください。

教養力育成科目「地域創生入門」開講 1学年次から学部横断型のPBLがスタート!

本学では、卒業するすべての学生に身に付けてほしい能力である「教養力」を以下のとおり定義し、その育成を図ることを教養教育の目標としています。

1. 社会や自然、人についての幅広い知識と視野（基盤知識）
2. 変化し続けるグローバル社会において、他者と協働しながら主体的に問題解決に立ち向かうことができる能力（基盤能力）

学生がこれからの時代を生き抜くためには専門知識に加えて教養を磨くことが不可欠であり、そのため本学では、必要な教養を身に付けるための全学共通の科目として「教養力育成科目」を開講しています。

今回ご紹介する「地域創生入門」は、教養力育成科目の基礎科目に位置付けられ、大学に近接する地域の歴史や産業、観光資源を学ぶとともに、企業、自治体、NPO法人など、現実の地域課題に向き合っておられる方々による特別講義と、そこで示された諸問題に関するグループでの課題解決学習やフィールドワークで構成されています。1年生という早い時期から、他学部の学生や学外の方との学びを通じて、地域活性化に資する人材に必要な論理的思考力と課題解決能力を育成することを目標としています。

「地域創生入門」2018年度の取り組み 主なポイント!

学外ゲスト講師による特別講義

10月5日に開講した「地域創生入門」は、指導教員である社会環境学部の松藤教授のガイダンスに続き、10月12日には、フィールドワークで実際にお世話になる企業、自治体、NPO法人の担当者の皆様と学生との顔合わせを目的とする意見交換会を開催しました。その後、10月19日から11月20日まで、本科目の趣旨に賛同いただいた学外ゲスト講師による特別講義が6回続きました。

企業・自治体・NPO法人による講義タイトルと講師一覧

	講演タイトル	講師(敬称略)
第1回	直方市中心市街地の歩みと今後の課題	(株)つなぐほ一む代表取締役 岩尾 一豊
第2回	地域の現状と課題について	古賀市副市長 柴田 俊一
第3回	福岡市、東区の特徴と東区からの課題提案	福岡市東区 地域支援課 原 慎太郎
第4回	Introduction to Community Building	NPO法人九州コミュニティ研究所 ディレクター 奥村 貴仁
第5回	皆で考えた相島を元気にする28の取り組み	新宮町政策経営課 大賀 純治
第6回	小郡市が目指す「食と農の複合集客施設」	小郡市長 加地 良光



▲写真左より、「地域創生入門」指導教員の社会環境学科松藤教授、授業中の学生の様子、学生のためにご講演いただいた小郡市の加地市長。

グループ学習とフィールドワーク

特別講義を受けて、受講生(工学部、情報工学部、社会環境学部の1年生33名)は6つのグループに分かれて現地に赴き、講師から提示された課題の解決に向けたフィールドワークに取り組みました。



▲グループ学習では、それぞれが担当する企業、自治体、NPO 法人の関係者にもアドバイスを求めるなど、学生達の主体的な学習態度が随所に見られました。

成果報告会

2019年1月11日には、協力いただいた企業、自治体、NPO法人の担当者出席の下、全員の前で活動成果を発表する成果報告会を開催。6つのグループそれぞれが学生ならではの視点で見出した解決策をプレゼンテーション形式で発表し、いくつかの提案については、引き続き次年度も継続して取り組むことを確認しました。

成果報告会での各チーム取組課題と連携先一覧

	取組課題	課題提供先
①	古賀市への移住・定住化促進策の提案	古賀市 総務部 経営企画課
②	福岡市東区箱崎商店街の活性化について	福岡市東区 地域支援課
③	和白校区周辺 “おじさん”(退職後の高齢者男性)の孤立解消策の提案	NPO法人 九州コミュニティ研究所
④	直方市商店街の活性化について	株式会社つなぐほーむ
⑤	新宮町相島の課題解決に向けて	新宮町 政策経営課
⑥	小郡市が目指す「食と農の複合集客施設」に関する現状分析	小郡市 農業振興課



▲成果報告会では、学生達の報告に対し学外コメンテーターさんより鋭い質問、意見をいただき、学生だけでなく教職員にとっても有意義な振り返りの場となりました。

活動の振り返りと今後の課題

学生の満足度は高い

- ◆グループのみんなで現地に行って現状について理解したり、課題について考えたりと貴重な経験になりました。しっかり考える力が付いたと思います。
- ◆自分の知らない地域のことについて聞いたりすることは新しい発見があり面白かったです。
【地域創生入門学生アンケートより抜粋】

学外コメンテーターからは次年度に繋がる課題をいただきました

- ◇学生の思い込みや先入観に基づいて提案がされているように感じ、エビデンス(根拠)づくりといった点をもう少し重視した方がいいように感じました。
- ◇プレゼンに対して、学生同士で意見を出し合うところが見られませんでした。他の班にまで意識をもっていく余裕がなかったように感じられました。
- ◇学生の提案内容について課題の掘り下げや提案の具体性などの面について少し物足りませんでした。

長崎県島原市と包括的連携協定を締結 学生の活動の場が県外にも広がりました!

島原 ICT プログラミング教室

本学は、近隣自治体、企業、大学との包括的連携協定を締結し、そこを起点に様々な教育・研究活動を展開しています。2018年10月、新たに長崎県島原市との連携協定を締結。そのきっかけとなったのが、島原市からの「地域におけるIoTの学び推進事業」(総務省)、ならびに「地方版IoT推進ラボ」(経済産業省)への共同参画の呼びかけでした。



▲今回の主役KOROBO-SP(左)と参加くれた島原市内小学校の子ども達との集合写真。

このうち、総務省が主管する「地域におけるIoTの学び推進事業」における地域実証事業では、島原市、株式会社ケーブルテレビジョン島原、島原ソフトウェア株式会社と協働で、2018年10月から12月にかけて、市内の小學生にプログラミングの考え方と面白さを体験してもらう「島原ICTプログラミング教室」を4回シリーズで開講しました。期間中、プログラミング教室の講師を情報工学科の木室教授、家永准教授が担当。また情報工学科を中心とした25名の学生が会場に赴き、ロボットの組み立てからプログラミングの入力、実際にロボットを動かして速さと正確性を競うロボコンの運営まで、小学生の活動を地域の方々と一緒にサポートしました。12月2日の授業終了後には、成果発表となる「福工大杯」を開催し、3つのクラスに分かれたロボットコンテストで会場は大いに盛り上がりました。学生メンターとして今回の活動に参加した学生達のコメントを紹介します。

福工大学生メンターの活動を終えてのコメント【一部抜粋】

- ◆ロボット教材を通して児童への学習の狙いや目当てについて段階的に明確に示すべきではなかったか。当然我々学生メンターも学習の狙いや目当てについてはっきりと認識して児童に接するべきであった。
- ◆児童がプログラムを理解し自分でプログラミングしてロボットを動かしていた様子を見て、とても嬉しくもあり感動しました。
- ◆ICTクラブ最終回のロボット競技会の閉会時に児童達が自身で組み立てたKOROBO-SPをクラブに返還する際に手放すのが辛く寂しそうでロボットへの思い入れが強く愛着が湧いていたのだなぁと思いました。
- ◆今後も機会があれば学生メンターに臨みたい。

2019年3月6日には今回の補助事業に採択された全国23団体が東京で成果発表会に臨みました。本学からはプロジェクト責任者の木室教授が出席し、実際に子ども達と一緒に作成したロボットを展示しながら、島原市の関係者と共に1年間の取り組みの成果を披露しました。



◀東京品川で開催された成果発表会「プログラミング教育・地域ICTクラブ推進フォーラム」の様子です。KOROBO-SPに興味を持たれた国重総務大臣政務官に、木室教授が詳しい解説を行いました(写真左)。

課題解決型インターンシップ

本学は教養力育成科目の中にキャリア科目を設け、低学年次から将来のキャリア形成を意識した「就業力育成プログラム」を正課授業の中で展開しています。島原市でも古川市長の強い意向を受け、2018年より「課題解決型インターンシップ」を実施。夏休み期間を活用して2名の学生が4週間に亘って島原市に滞在し、島原市より提示された「住みたい、住み続けたいと思える移住・定住策」をテーマに、市内の事業者や住民との意見交換、移住者や希望者への聴き取りなど、島原半島に関する情報収集を重ね、具体策の提案に取り組みました。活動を締めくくる成果報告会には大勢の市民にも参加いただき、学生の提案に耳を傾けるとともに、4週間の活動に対する労いの言葉や、次年度も継続してほしいというリクエストが寄せられました。



▲インターンシップ期間中は、毎日市役所に登庁し、市職員の方々と共に働きました。緊張する成果報告会と平成新山でのリフレッシュのひと時のギャップに注目です！

島原市PBL編

卒業研究の一環として島原市の行政課題の解決に取り組むPBLでは、情報工学部情報システム工学科の山口研究室、山本研究室の3つのチームが、島原市の関係各課から提示いただいた2つの課題(①島原城を訪れる観光客数向上を目指した観光振興策の提案、②若い世代定住促進に向けた子育て支援策の提案)に挑みました。各チームは、6月上旬に島原市での意見交換、現地視察を行い、その後ICTを活用した課題解決策の提案に向けて、現地での情報収集、アンケート調査、実証実験などを実施。古川市長をはじめ島原市の全ての関係者へ出席いただいた2月25日の成果報告会には、長崎県のマスコミ各社も訪れ、ケーブルテレビと新聞2紙に今回の成果が大きく取り上げられました。

2018年度島原市PBLの取り組みテーマ

取組課題と活動内容	チームメンバー	連携先
観光PRを目的とした武将との顔比較アプリケーションの開発 島原城でのアトラクションを想定した、利用者の顔画像を入力して、天草四郎を含む複数の武将との類似度を評価するシステムの提案	情報システム工学科 山本研究室 山口 智紀 吉原 央薫	島原観光ビューロー しまばら 観光おもてなし課
島原城における観光客の位置情報推定システムの研究 島原城のFree Wi-Fi活用プロジェクトの前段階として、Wi-Fiの利用状況を調査することを今年度のプロジェクトとして提案	情報システム工学科 山口研究室 原 将大 深野 洋平	島原観光ビューロー しまばら観光 おもてなし課
島原 子育て応援チャットボットの開発 LINEBOTを活用した子育て情報提供システムの開発とフィールド調査、アンケートの実施	情報システム工学科 山口研究室 西田 航太郎 山口 野乃花	島原観光ビューロー しまばら観光 おもてなし課



▲1年間の活動成果を発表する学生達。古川市長を初め関係市職員の鋭い視線やカメラのフラッシュを浴びる中、いつになく引きしまった表情が印象的です。

新宮町

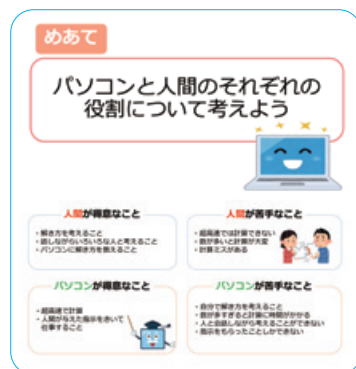
2017年度から継続しているICTを活用した2つのPBLに注目

学校教育課・立花小学校×システムマネジメント学科シスマネPBL //

「新宮町プロジェクト」

情報工学部システムマネジメント学科では、2017年度より3年次選択科目「ゼミナールII」において、学生達が4つのプロジェクトに分かれ、学科での学びをベースに地域課題の解決を目指して主体的に課題解決に取り組む「シスマネPBL」を展開しています。

今回紹介する新宮町立 立花小学校とのコラボによる「新宮町プロジェクト」では、5名の学生が遠足に持って行くお菓子の組み合わせを題材に、「パソコンと人間のそれぞれの役割を考えよう」というテーマで体験授業を2月22日に実施しました。体験授業のために学生が開発したオリジナルアプリの裏では、同学科で学んだ“最適化アルゴリズム”の理論が働いており、コンピュータに正確かつ大量な計算を任せるためには、人間がどのようにプログラムを考えるかが重要だ、ということが体験的に理解できる内容に仕上がっていました。立花小学校の先生方からは、「授業中、子ども達の驚きや発見がたくさんあってとても良い授業でした。」との評価をいただいています。



▲体験授業では学生達が講師とアシスタントを務めワクワクする授業を披露し、大成功を収めました。

環境課×情報システム工学科山口研究室「FITW2018」 //

情報工学部情報システム工学科の山口研究室では、福岡県内の5大学(九州工業大学、九州産業大学、九州大学、福岡大学と福岡工業大学)で学ぶ学生が自治体職員とグループを構成し、ITを活用しながら地域課題の解決を図る「ふくおかIT Workouts」に、卒業研究の一環として取り組んでいます。新宮町の環境課とは、2017年度に「家庭ゴミの分別情報提供アプリの開発」を行い、2018年度は環境課からのリクエストで、アプリ機能を更に改良した「家庭ゴミ削減とリサイクルに関する情報提供システム」の開発に研究室の学生3名が挑み、昨年11月に開催された「ふくおかIT Workouts」の成果報告会でも高い評価をいただきました。以下に新宮町環境課職員、(一社)福岡県情報産業サービス協会からのコメントを紹介します。



新宮町環境課

昨年からさらに見やすく便利にカスタマイズしてもらい、ありがとうございました！一時は難しいかと思われた住所からのごみ分別ステーション検索機能が実装され、環境課の職員にとっても好評です。新宮町のごみ分別は古賀市、福津市と共通ですので、他自治体にも連携展開できる可能性を感じています。



(一社)福岡県情報産業サービス協会

検索機能追加はもちろん、アプリ内のページ遷移を最小限に抑えて欲しい情報に直観的に辿りつけるように改良したことも高評価ポイントでした。開発前の設計段階でしっかり考えるというのは、社会人の仕事でもまったく同じで、良い経験になったのではないでしょうか。



前年度アプリ「ごみ分別アプリ」の開発

◆新宮町のごみ分別情報提供を目的とした「ごみ分別アプリ」

機能	詳細
各種ごみの出し方検索機能	各種ごみの出し方検索機能 分別区分ごとのごみの出し方を表示
ごみ分別検索機能	ごみの品目から検索し、ごみ分別情報を表示
分別ステーション検索機能	行政区と組合から検索し、分別ステーション情報を表示

課題・要望
・利用者が自治体行政区と組合から検索しなければ分別ステーションの場所を表示出来ない
・知りたい情報にたどり着くことが難しい
・リサイクル情報を増やして欲しい

今年度の開発方針

◆前年度アプリから3つの機能を変更した



▲写真上から順に、新宮町環境課職員との打ち合わせ、ふくおかIT WORKOUTS 2018での成果報告会、学内企業交流会での事例報告の様子です。図は、学生達が新宮町での成果報告会で使用したアプリ開発に関するプレゼンテーション資料の抜粋です。

古賀市

行政課題と直結した2つのプロジェクトが本格始動

経営企画課×社会環境学科上杉研究室「モビリティ・マネジメント事業」

社会環境学科の上杉研究室では、地理学・都市計画学・空間情報学を融合させたアプローチにより、地域の社会環境に密接した教育研究を進めています。2018年度より、同学科3年次ゼミナールの活動として、研究室の学生8名が、古賀市経営企画課と共働で「モビリティ・マネジメント事業」に取り組むこととなりました。

研究室では、昨年10月から古賀市との打ち合わせを重ね、市民を対象とした事前調査アンケート200通を発送したところ、回収目標50%を超える106通の回答を得ました。現在は、回収したアンケートを「生活スタイルに合わせたバス利用プランを提案するグループ(施策群)」と「何も提案しないグループ(制御群)」に分け、施策群向けのバス利用プランを作成中です。単にバス情報を提供するだけでなく、バスを使った古賀市の魅力スポットへのお出かけや地球温暖化防止等にも波及効果のあるプランを提示するために、学生達は、地図情報をどう加工するか、エリアや年代によってどのようなプランが効果的かといった“正解のない問い”に答えを出そうと努力を重ねています。授業で得た知識を現場の課題解決に活かしていくことで、さらに深い学びにつながっているようです。

※モビリティ・マネジメント:一人一人の移動(モビリティ)が、個人的にも社会的にも望ましい方向(すなわち、過度な自動車利用から公共交通・自転車等を適切に利用する方向)へ自発的に変化することを促す、コミュニケーション施策を中心とした交通施策のこと【土木学会発行「モビリティ・マネジメントの手引き-自動車と公共交通のかしこい」使い方を考えるため交通施策」(2005年発行)より引用】



▲古賀市経営企画課の職員(左手前)と一緒に事業計画の打合せを行う上杉研究室のメンバー。このような共同活動を通じて出来上がったのが、古賀市民を対象としたアンケート票です(右図)。

古賀市版モビリティ・マネージメントについて

モビリティ・マネージメントとは、一人一人の移動が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促す「コミュニケーション施策」を中心とした交通施策です。

本事業では、一人一人の移動が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促す「コミュニケーション施策」を中心とした交通施策です。

本事業では、一人一人の移動が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促す「コミュニケーション施策」を中心とした交通施策です。

バス・自家車利用についてのアンケート

このアンケートは、古賀市版モビリティ・マネージメント事業の一環として実施されています。ご回答いただいた情報は、今後の施策立案に活用させていただきます。

ご回答は、個人情報が含まれておりません。ご回答いただいた情報は、今後の施策立案に活用させていただきます。

ご回答は、個人情報が含まれておりません。ご回答いただいた情報は、今後の施策立案に活用させていただきます。

農林振興課×電気工学科北崎研究室

「スイーツコーン種子へのプラズマ照射による実証実験」

工学部電気工学科の北崎研究室では、野菜の種子にプラズマを照射し、その後の発芽スピードや生育状況、実の大きさ、数、甘さなどに与える影響の有無について、学内にプランターを設置して独自の実証実験を重ねてきました。連携事業として、同研究室での地道な活動に注目した古賀市農林振興課の提案により、2018年には農林振興課、JA粕屋青年部古賀市支部と共働で、実際の農地を使用して、古賀市の特産物である「こがスイーツコーン」の種子にプラズマを照射し、非照射のものとの生育の違いを調べる大規模実証実験を実施しました。

北崎研究室では、2018年初めより、JA粕屋に所属する農家の経営者と事前に打ち合わせを行い、4月7日に播種、10日後の定植、6月27日の収穫と、定期的に農地を訪れ、青年部の皆さんと一緒にスイーツコーンの発育を観察しました。初年度は、種子へのプラズマ照射時間、種子に与えるダメージ、実験室と屋外の違いによる生育環境の違いなどの影響により、想定していた結果を証明することはできませんでしたが、その要因について研究室で詳細に分析し古賀市に報告したところ、引き続き協力してもらえる農園を紹介いただきました。

早くも2019年の実証実験がスタートしています。北崎助教と研究室の学生達は、今年こそ明確な結果を証明できるよう、日々研鑽を重ねています。

■ 確認実験 1 (H30. 4. 14)

- 水耕栽培5日目の様子。照射時間の増加に伴い、赤い色調はほとんどなくなる。
- 180分の照射で発芽する種子もあり(成長は良くはない)。30分のプラズマ照射で発芽する可能性は低いと考えられる。
- 色の変化より、表面に濃着している農薬の浮き出しは照射により大きくなる。

安武さんからのコメント
プラズマ照射により農薬性が薄くなったものの、土壌農薬の浮き出しは、土壌に付着する農薬の浮き出しは照射により大きくなる。



▲研究室では農地での実験と並行して研究室でも確認実験を行ってきました(左図)。6月末の収穫時に実の入り具合を確認する北崎研究室のメンバー(中)と、次年度事業計画について古賀市安武園芸様と農林振興課を交えた打ち合わせの様子(右)。

福岡市 (東部地域大学連携／大学ネットワークふくおか)

福岡市東部における“地(知)の拠点”として、大学間連携による社会貢献を推進

福岡市とは、東部地域大学連携を構成する九州産業大学、福岡女子大学とともに、東区役所と協働で地域活性化、地域力向上を目的とする様々な活動を展開しました。また、大学ネットワークふくおか(2019年度より「福岡未来創造プラットフォーム」)の加盟校として、学生の地域貢献活動を初めとする様々な大学間交流プログラムをサポートしています。



福岡市市民総合防災訓練

2018年6月9日、福岡市東区勝馬小学校に於いて、福岡市市民防災訓練の東区大会が開催されました。東区からの、東部地域大学連携への学生ボランティア派遣要請を受けて、本学からは学生自治会のメンバー7名が参加。会場で地域住民、NPO法人、行政職員とともに、会場設営や炊き出し、避難者誘導などの社会貢献活動に汗を流しました。地域住民や福岡市からは、学生達の真摯な姿勢に対し感謝の言葉が数多く寄せられました。



YOUTH FESTA HIGASHI 2018

2018年11月25日、福岡市東区なみきスクエアに於いて、第1回YOUTH FESTA HIGASHI 2018が開催されました。この催しは、青少年に科学、芸術などのプログラムを実体験してもらうことで、学術文化に対する興味、関心を呼び起こそうとするものです。本学からも電気工学科の高原研究室、短期大学の弘中研究室、モノづくりセンターのプロジェクトメンバーが体験型プログラムを提供。福工大ブースは終日、大勢の親子連れで賑わっていました。



東区委託事業シンポジウム 「超高齢・長寿社会を支える地域力について考える」

2019年3月9日、福岡女子大学に於いて、福岡市主催、東部地域大学連携企画によるシンポジウムを開催。3大学研究者による調査・研究活動の成果報告とともに、行政、地域住民への提言を行いました。本学社会環境学科の松藤教授による地域活動の担い手となる人材育成の必要性和地域と大学の連携による今後の取り組みについては大きな共感を呼び、2019年度も継続して委託研究を行うことが決定しています。



福岡未来創造プラットフォーム 地域人材育成WG

福岡都市圏に所在する19大学と福岡市、福岡市中小企業経営者協会で構成される「大学ネットワークふくおか」は、2018年度をもって発展的解消し、2019年4月より「福岡未来創造プラットフォーム」として、福岡市の持続的発展に必要な人材育成と産業振興を目指して活動していくこととなりました。本学はその中で「地域人材育成WG」の幹事校を担当することとなり、第1回目のミーティングを2月25日福岡市役所で開催しました。

お知らせ

— 学生の課外活動をサポートする
新たな修学支援「ポイント制度」がスタートします —

本学では2019年度より、社会連携室※が主管する全ての課外活動について、学生一人ひとりの活動履歴を学修ポートフォリオ(FITAIM)で可視化し、活動実績に応じてポイントを付与する、「ポイント制度」を導入します。

※2019年4月1日より、大学・地域連携推進室は「学術支援機構 社会連携室」に組織が変更されます。

「ポイント制度」とは？

- (1) 社会連携室が指定する課外活動に参加する学生には、活動の内容、難易度、活動期間を勘案したポイント(FIT Point)を付与します。
- (2) 一定以上のポイントを獲得した学生には、更なる主体的学びに向けた“動機づけ”となるような教育サービス(修学支援)を還元します。

期待される成果

- (1) 課外活動を通じた学生の主体的・発展的学びの促進
- (2) 課外活動履歴の管理・蓄積(可視化)と活用
- (3) “地域に貢献する大学”として課外での社会貢献、自己啓発に取り組む学生数の拡大

「FIT-POINT」運用イメージ

☆学生の課外活動履歴を一元管理し「ポイント付与という動機づけ」を行うことで在学中の課外活動を通じた学生の「主体的学び」を拡大、発展させていきます。

半期毎にポイント付与
教職員による
フィードバックを行う

1年次

- ・環境美化活動(学内外での清掃活動など)
- ・学習支援活動(小中学生学習支援など)
- ・高齢者支援活動(体操教室ボランティアなど)

2年次

- ・まちづくり推進活動(PBL) (PBL、学生地域活動大賞など)
- ・環境美化活動
- ・学習支援活動
- ・高齢者支援活動

3年次

- ・自己啓発活動(ビジネスチャレンジ)
- ・まちづくり推進活動

特典2

特典1

特典1
100ポイント以上
獲得でポイント
チケットと交換開始

特典2
200ポイント以上
獲得でステージ
アップポイント付与

活動名	ポイント
環境美化活動(学内外での清掃活動など)	10
学習支援活動(小中学生学習支援など)	10
高齢者支援活動(体操教室ボランティアなど)	10
まちづくり推進活動(PBL) (PBL、学生地域活動大賞など)	20
環境美化活動	10
学習支援活動	10
高齢者支援活動	10



Q.1 ポイント制度の目的はどのようなものですか？

Q.2 FIT AIMの操作方法はありますか？

Q.3 ポイントの付与はどのように行われますか？

Q.4 ポイントの付与はどのように行われますか？

Q.5 FIT AIMの操作方法はありますか？

Q.6 FIT AIMの操作方法はありますか？

【問い合わせ先】福岡工業大学 学術支援機構 社会連携室

E-mail: collabo@fit.ac.jp

TEL: 092-606-7430(直通) / FAX: 092-606-7445

2018年度活動一覧

4月

- 古賀市「スイーツコーン種子へのプラズマ照射実証実験」播種（電気工学科北崎研究室）
- 島原市との教育連携・研究連携に関する関係者意見交換会
- 新宮町「グリーン作戦（町内一斉清掃活動）」学生ボランティア参加（於：新宮海岸）
- 古賀市「スイーツコーン種子へのプラズマ照射実証実験」定植（電気工学科北崎研究室、JA粕屋青年部古賀支部）

5月

- 福岡市民総合防災訓練（東区会場）第2回分科会（於：勝馬小学校）
- 新宮町人丸公園ピオトープ観察会（社会環境学科 坂井教授、ピオトープ研究会）
- 新宮町たのしんぐらプロジェクト「ふくおかITWorkouts2018 Kickoff Workout」参加（於：福岡大学）
- 東部地域大学連携・FIT女子会「福岡県警防犯アプリ“みまもっち”」モニタリング協力
- 福岡和白病院・FIT女子会「ナイチンゲール生誕祭 1日師長体験」参加
- 新宮町「子ども体験クラブ」ボランティア学生派遣
- 東部地域大学連携学生懇話会「東福岡防犯協会」防犯功労団体として表彰
- 古賀市・福岡工業大学「第1回連携協議会」（於：古賀市役所）
- 東部地域大学連携「第1回推進委員会」（於：福岡女子大学）
- 新宮町・福岡工業大学「第1回連携協議会」（於：新宮町役場）
- 福岡市「学生サポーター制度」ボランティア学生活動開始
- 古賀市「ヤングアドバイザー」ボランティア学生活動開始
- 古賀市「学童保育所補助指導員」ボランティア学生活動開始

6月

- 東部地域大学連携 留学生交流事業「第2回 なみき芸術文化祭」屋台出店（於：なみきスクエア）
- 島原市PBL「学生プロジェクト第1回意見交換」（於：島原市役所、情報システム工学科山口研究室、山本研究室）
- 東部地域大学連携「福岡市民総合防災訓練」参加協力（於：勝馬小学校）
- 福岡市「ラプアースクリーンアップ」ボランティア学生派遣（於：塩浜、雁ノ巣）
- 東部地域大学連携「第1回学長懇話会」
- 医介学連携「第7回医介学連携講座 “郊外住宅地における地域力の今後を考える”」
- 古賀市「留学生短期インターンシップ」タイ人学生派遣（於：舞の里小学校）
- 東部地域大学連携「第1回学生懇話会・女子学生のための防犯推進協議会」（於：福岡女子大学）
- 医介学連携「福岡工業大学吹奏楽団演奏会」（於：奈多創生園）
- 古賀市「学習アシスタント」ボランティア学生活動開始
- 古賀市「スイーツコーン種子へのプラズマ照射実証実験」収穫（電気工学科北崎研究室、JA粕屋青年部古賀支部）

7月

- システムPBL中間発表会（システムマネジメント学科3年生）
- 古賀市「小学生対象プログラミング教室」協力（短期大学部石塚・弘中研究室、於：古賀市立図書館）
- 新宮町「寺子屋事業」運営協力、ボランティア学生活動開始（於：新宮町内）

8月

- 新宮町「子ども体験クラブ」ボランティア学生派遣
- 新宮町たのしんぐらプロジェクト「ふくおかITWorkouts2018 CommunicationWorkouts」参加（於：福岡大学）
- 医介学連携「福岡和白病院体操教室」ボランティア学生派遣
- 国公私環境系3大学連携「第7回ピオトープ研究交流会」（福岡工業大学「ピオトープ研究会」、長崎大学「ピオトープパレット」）
- 糟屋地区情報教育研修会開催協力（システムマネジメント学科藤岡教授、於：福岡工業大学）
- 東部地域大学連携学生懇話会「飲酒運転撲滅キャンペーン」参加協力（於：香椎浜イオン）
- 「課題解決型インターンシップ」活動開始（於：古賀市、新宮町、福岡和白病院、島原市他）

9月

- 東部地域大学連携学生懇話会「放生会防犯パトロール」参加協力（於：籍崎宮）
- 創生会「敬老祝賀会」FIT女子会ボランティア学生参加（於：奈多創生園）
- 新宮町「子ども体験クラブ」ボランティア学生派遣
- 古賀市「乗っ得キャンペーン」企画・運営協力（社会環境学科1年生、於：古賀コスモス館）

10月

- 教養教育科目「地域創生入門」開講
- 福岡県警察本部 特別講義「警察の交通事故統計」（システムマネジメント学科1年生「確率統計1」）
- 島原市PBL「学生プロジェクト第2回意見交換」（於：島原市役所、情報システム工学科山口研究室）
- 島原市・福岡工業大学 包括的連携協定締結（於：島原市役所）
- 医介学連携「第8回医介学連携講座 “年のせい？元気がないのは『心ぞう』の叫び”」
- 医介学連携「奈多創生園作品展」出展（写真部・モダンアート部）
- 総務省「IoT学び推進事業 第1回ICTクラブ プログラミング教室」協力（於：島原市）
- 医介学連携「三苦地区住民安心メール登録会」学生ボランティア派遣
- 東部地域大学連携「性犯罪防止キャンペーン」参加協力（於：JR香椎駅）
- 大学ネットワークふくおか「学生地域活動大賞」エントリー（於：福岡NPO・ボランティア交流センターあすみん）

11月

- 新宮町「人丸公園ピオトープ自然観察会」開催（社会環境学科ピオトープ研究会）
- 総務省「IoT学び推進事業 第2回、第3回ICTクラブ プログラミング教室」協力（於：島原市）
- 新宮町・福岡工業大学「第2回連携協議会」（於：福岡工業大学）
- 東部地域大学連携「イースタンヤングフェスティバル」体験ワークショップ協力（工学部 高原研究室、短大 弘中研究室、モノづくりセンター、於：なみきスクエア）
- 東部地域大学連携「第2回学生懇話会・女子学生のための防犯推進協議会」（於：福岡女子大学）
- 新宮町たのしんぐらプロジェクト「ふくおかITWorkouts2017 PresentationWorkouts」(成果報告会)参加（於：九州産業大学）
- 島原市PBL「学生プロジェクト第3回意見交換（中間報告）」（於：島原市、情報システム工学科 山口研究室、山本研究室）

12月

- 新宮町「子ども体験クラブ」ボランティア学生派遣
- 総務省「IoT学び推進事業 第4回ICTクラブ プログラミング教室、福工大杯」協力（於：島原市）
- 島原市PBLフィールドワーク実施（於：島原市保健センター、島原城、山口研究室）
- 医介学連携「第9回医介学連携講座 “How To 介護 ?! ~施設入所と認知症対応について~”」
- 東部地域大学連携学生懇話会「歳末交通安全キャンペーン」参加協力（於：香椎浜イオンモール）
- 国公私3大学連携「第5回環境フォーラム」参加（社会環境学部、於：長崎大学）
- 新宮町「歳末一斉安心安全パトロール」ボランティア学生派遣

1月

- 教養教育科目「地域創生入門」成果報告会
- 東部地域大学連携「第3回学生懇話会・女子学生のための防犯推進協議会」(於：福岡女子大学)
- 島原市PBLフィールドワーク実施(於：島原城、山口研究室)
- 古賀市プロジェクト「成果発表会」(システムマネジメント学科)
- 古賀市「スイーツコーン種子へのプラズマ照射実証実験」成果報告会（古賀市、安武農園、電気工学科北崎研究室）

2月

- 東部地域大学連携・FIT女子会「性犯罪防止キャンペーン」参加協力（於：JR香椎駅）
- 古賀市・福岡工業大学「第2回連携協議会」（於：古賀市役所）
- 東部地域大学連携「第2回推進委員会」（於：福岡女子大学）
- 新宮町プロジェクト「立花小学校ICT特別授業」実施（システムマネジメント学科）
- 新宮町「楯の松原海岸清掃活動」ボランティア学生派遣
- 島原市PBL「学生プロジェクト成果報告会」（於：島原市役所、情報システム工学科山口研究室、山本研究室）

3月

- 東部地域大学連携「第2回学長懇話会」
- 総務省「IoT学び推進事業 成果報告会」(於：東京都)
- 東部地域大学連携・FIT女子会「福岡県主催性犯罪防止キャンペーン」参加協力(於：西鉄福岡駅)
- 東部地域大学連携「東区委託事業 シンポジウム 超高齢・長寿社会を支える“地域力”について考える」(於：福岡女子大学)
- 新宮町たのしんぐらプロジェクト 成果報告会（於：新宮町役場、山口研究室）
- 東部地域大学連携「第3回推進委員会」(於：福岡女子大学)
- 医介学連携「第1回連携協議会」
- 福岡県警プロジェクト 成果発表会（於：福岡県警察本部、システムマネジメント学科）